校異源氏物語・花ちるさと

ひとしれぬ御心つからの物おもはしさはいつとなきことなめれとかくおほかたのよにつけてさへわつらはしうおほしみたるることのみまされはもの心ほそく世中なへていとはしうおほしならるゝにさすかなることおほかりれいけいてんときこえしは宮たちもおはせす院かくれさせたまひてのちいよ　くあはれなる御ありさまをたゝこの大将殿の御心にもてかくされてすくしたまふなるへし御をとうとの三のきみうちわたりにてはかなうほのめきたまひしなこりのれいの御心なれはさすかにわすれもはてたまはすわさともゝてなしたまはぬに人の御心をのみつくしはてたまふへかめるをもこのころのこることなくおほしみたるゝよのあはれのくさはひには思いてたまふにはしのひかたくてさみたれのそらめつらしくはれたるくもまにわたり給なにはかりの御よそひなくうちやつして御せんなともなくしのひてなかゝはのほとおはしすくるにさゝやかなるいへのこたちなとよしはめるによくなることをあつまにしらへてかきあはせにきはゝしくひきなすなり御みゝとまりてかとちかなる所なれはすこしさしいてゝみいれたまへはおほきなるかつらのきのおひかせにまつりのころおほしいてられてそこはかとなくけはひおかしきをたゝひとめみ給しやとりなりとみたまふたゝならすほとへにけるおほめかしくやとつゝましけれとすきかてにやすらひたまふおりしもほとときすなきてわたるもよをしきこえかほなれは御くるまをしかへさせてれいのこれみついれ給

　おちかへりえそしのはれぬほとゝきすほのかたらひしやとのかきねにしん殿とおほしきやのにしのつまに人　くゐたりさき　くもきゝしこゑなれはこわつくりけしきとりて御せうそこきこゆわかやかなるけしきともしておほめくなるへし

　ほとゝきすことゝふこゑはそれなれとあなおほつかなさみたれのそらことさらたとるとみれはよし　くうへしかきねもとていつるを人しれぬ心にはねたうもあはれにも思けりさもつゝむへきことそかしことわりにもあれはさすかなりかやうのきはにつくしのこせちからうたけなりしはやとまつおほしいついかなるにつけても御心のいとまなくゝるしけなりとし月をへても猶かやうにみし

あたりなさけすくしたまはぬにしもなか　くあまたの人のものおもひくさなりかのほいのところはおほしやりつるもしるく人めなくしつかにておはするありさまをみたまふもいとあはれなりまつ女御の御かたにてむかしの御ものかたりなときこえ給に夜ふけにけり廿日の月さしいつるほとにいとゝこたかきかけともこくらくみえわたりてちかきたちはなのかほりなつかしくにほひて女御の御けはひねひにたれとあくまてよういありあてにらうたけなりすくれてはなやかなる御をほえこそなかりしかとむつましうなつかしきかたにはおほしたりし物をなと思いてきこえ給につけてもむかしのことかきつらねおほされてうちなきたまふほとゝきすありつるかきねのにやおなしこゑにうちなくしたひきにけるよとおほさるるほともえんなりかしいかにしりてかなとしのひやかにうちすんし給

　たち花のかをなつかしみほとゝきすはなちるさとをたつねてそとふいにしへのわすれかたきなくさめにはなをまいり侍ぬへかりけりこよなうこそまきるゝこともかすそふこともはへりけれおほかたのよにしたかふものなれはむかしかたりもかきくつすへき人すくなうなりゆくをましてつれ　くもまきれなくおはさるらんときこえたまふにいとさらなるよなれとものをいとあはれにおほしつゝけたる御けしきのあさからぬも人の御さまからにやおほくあはれそゝひにける

　ひとめなくあれたるやとはたちはなのはなこそのきのつまとなりけれとはかりのたまへるさはいへと人にはいとことなりけりとおほしくらへらるにしおもてにはわさとなくしのひやかにうちふるまひたまひてのそき給へるもめつらしきにそへてよにめなれぬ御さまなれはつらさもわすれぬへしなにやかやとれいのなつかしくかたらひたまふもおほさぬことにあらさるへしかりにもみたまふかきりはをしなへてのきはにはあらすさま　くにつけていふかひなしとおほさるゝはなけれはにやにくけなくわれも人もなさけをかはしつゝすくしたまふなりけりそれをあいなしと思人はとにかくにかはるもことはりのよのさかとおもひなしたまふありつるかきねもさやうにてありさまかはりにたるあたりなりけり